

■ やられたら倍返しを続けていれば、
口喧嘩はやがて核戦争へと発展する

修正： 2023.03.01

投稿： 2023.03.01



●やられたら倍返しを続けていれば、

口喧嘩はやがて核戦争へと発展する①

「相手が自分の思い通りに動いてくれない」

とき、人は人に腹を立てているものです。

上司が部下を叱責するのも、
彼氏彼女がリベンジポルノに及ぶのも、
客が店にクレームを入れるのも、

相手が自分の思い通りに動いてくれなかったから、
です。だからこそ、自分の思い通りに動くように、
相手の言動を無理にでも変えようとしています。

しかしながら、人は、他人を変えようとする一方で、
他人から変えられることはひどく嫌います。よって、
他人から少しでも干渉を受ければ、それだけで
イライラするものです。実に**自分勝手**です。

本来「怒り」というのは、「何かを変えるための力」です。
そしてその「何か」とは、「自分」であることが理想です。
が、そうはならず、他人を変えようとして
いつもイライラしているのが人間です。

ネット上のつまらない論争でイライラするのも、
自分を変えられたくないけど、相手を変えたい、
しかしその相手がなかなか変わらないからです。

もし本当に相手に変わってほしいなら、
自分から率先して変わっていかねばなりません。

相手を変えたいならまずは自分から。

内側から攻められた方が致命的であるように、

相手を変えたいなら、相手を知り己を知り、
内側から働きかけていかなければなりません。

力任せに相手を変えていけば、
些細な**不満**は積もり積もって
恨みとなって還ってくることになります。
(「奪って奪われる」の原則です)

(続)

//=====//

●やられたら倍返しを続けていけば、

口喧嘩はやがて核戦争へと発展する②

「人を殺す」の反対って何だと思いますか？

「人を助ける」だと思いますか？

違います。

「人を殺す」の反対は「人に殺される」です。

なぜそうなるかというと、

それが**人を許す条件**になっているからです。

人を殺した人がいて、その人の罪が許されるのは、

「その人も誰かに殺されて苦しんだ」ときだけです。

「撃っていいのは撃たれる覚悟のある奴だけだ」の通りです。

これは**感情**における清算の考え方です。

人は、自分より苦しんできた人に対しては、

寛容になれるものなのです。逆もしかりですが。

私たちは感情の生き物ですから、

罪滅ぼししたいのであれば、**どれだけ苦しめばいいか**、
という観点で考えなければなりません。

「1人殺して1人助ければ±0になる」というのは、
人口の増減での話であって、感情の観点からすれば、
まったく的外れとなります。

罪が許されるのは、

「己の受けた苦しみが人に与えた苦しみよりも大きい」
ときだけです。

受けた苦しみが**足りない**と判断されれば、周囲の人間は、
「こいつはもっと苦しむべきだ!」と**求めてくる**のです。

ただし気をつけなければなりません、
悪人であろうと罪人であろうと、彼ら彼女らを苦しめれば、
苦しめた人もまた悪人となります。

誰かを殺したなら、許されるためには、

「**それと同じ苦しみを味わうこと**」が求められます。
「**目には目を、歯には歯を**」のハンムラビ法典の如く、
奪ったなら奪われなければならないのです。

(続)

//=====//

●やられたら倍返しを続けていれば、

口喧嘩はやがて核戦争へと発展する③

軽い気持ちで手を出せば戻ってこられなくなります。
だからテスト勉強中にゲームだけは絶対にしない！
と決めていた時期が、私にもありました…。

//-----

さてさて、本題ですが、

人を恨むことのできる期間にも限界があります。
いつまでも覚えてはいられないからです。
そうすると、報復されるべき人からすると、
報復されるチャンスを逃してしまうことになります。

自分の「行い」と「報い」の関係を学びたい人からすると、
報復されなければ学びになりませんから、そういう意味では、
報復されないことはチャンスロスということになるのです。

ただし、別に当事者が報復しなくても、
誰か他の人が代わりにやる、というのが人の世です。
この意味では、「復讐は無意味だ」と言えます。
わざわざ自分で復讐する必要もないからです。

で、この報復についてですが、
数値化して捉えると、分かりやすくなります。たまに、
「取り返しのつかないことをしてしまった…」
という人もいますが、いやいや、取り返しはつきます。

例えば、極端な例ですが、
10 人の人を殺してしまった人で考えると、
もし 1 人につき 100 万時間の報いを受けるとすれば、
1000 万時間ですから、約 1000 年で済むことになります。
それか 10 回殺されるか、です。

わずか数十年の人生の中で 1000 年の報いとなれば、
割に合わず、愚かしいことこの上ありませんが、それでも
決して、**取り返しがつかないことはありません。**
そういう意味では、**どんな人にも希望はある**のです。

(完)

//=====//

Web サイト：

心を力学する ー原理・原則に基づく生き方を考えるー

著者：

時無 和考(Tokinashi Kazutaka)